



テイク・ケア訪問看護ステーション 管理者 森谷 和代 様

コロナ禍に夫婦でがん終末期となった妻の療養場選択への調整が難航した事例における看看連携の重要性!!

----- まとめ -----

- ・コロナ禍に退院前カンファレンスが行われない場合、外来看護師と訪問看護の連携、オンライン面談の必要性
・療養場選択において、家族の文化的背景や価値観を理解し、訪問看護が他職種に働きかけ調整役割を果たすことが重要

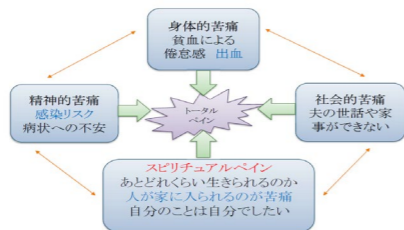
看護の実際【訪問看護開始の時期】

生活への価値や家族の文化
・A氏は家族の中心としての妻や母親としての社会的役割への価値が高い
・夫とはいつも一緒、人生のパートナーとして大切に想っている

A氏の認識
人が家に入らしてほしくない
訪問看護について必要性を感じない
病状が悪くなったら緩和ケア病棟に入所したい



トータルペイン



看護の実際【夫の入院、A氏病状悪化の時期】

- ・夫が多発性骨髄腫診断後入院、面会制限により夫の世話ができないことによる社会的苦痛の増強、自身の病状悪化、発熱や出血量の増加による身体的苦痛の増強
・A氏は病状が悪化すれば緩和ケア病棟の入所を希望しているが、夫のことが心配で気持ちの揺れを訪問看護師へ表出
・週1回の訪問看護利用について一定の理解
「こうやって話を聞いてもらって自分のことだけを考えてもいいと言われようから解放される。がんばらなくていいんやね。」
→今何を大切にしたいかについて働きかける

考察 フィンクの危機モデル

Table with 3 columns: Crisis Model, Characteristics, and Points of Care. It details the progression from shock to crisis and the role of caregivers.

小島操子他, 2017. 危機状況にある患者・家族の危機の分析と看護介入. 金芳堂.



高槻赤十字病院 緩和ケア病棟 看護師長 秋山 由衣 様

訪問看護師・ケアマネージャーの情報提供から患者や家族の思いに寄り添い、療養場所等、患者・家族の意思決定支援!!

----- まとめ -----

- ・入院前に、看護上の問題点を訪問看護師から電話で情報共有して頂いたことにより、患者の気持ちや価値観を大切にケア・関わりを行うことに繋げることができた

家族の思い

・長男の思いは、あえてA氏と一緒にない場所で話を伺う。



1回目の外泊を実施

Summary of the first home visit, including preparation, patient response, and observations from the caregiver.

2回目の外泊を実施

Summary of the second home visit, detailing the patient's improved condition and family reactions.

A氏の最期を看取った家族の反応

Summary of family reactions to the patient's passing, including relief and gratitude.

府北支部理事 森田 眞由美

今回の研修会では療養場所の選択において患者と家族の揺れる思いを受け止めながら対応された事例でした。印象的だったのは、非言語と言語の不一致をそのまま受け止めるという事、そして非言語にある本音をどう引き出すのか、非常に難しい事だったと思います。



大阪府訪問看護ステーション協会

三島ブロック理事 原田かおる

病院と地域を「看護」がつなぐ、そのために看護の連携は必須だと実感する事例報告だと感じました。連携が大事という言葉は使い古された感も否めませんが、それでも対象者に真摯に向き合い、病院と地域が双方に「対象者の幸せのために」と繋がりを築けることの看護の強みを感じた事例報告会でした。

研修担当者 (府北役員)

西森 麻喜子 田尻 愛子

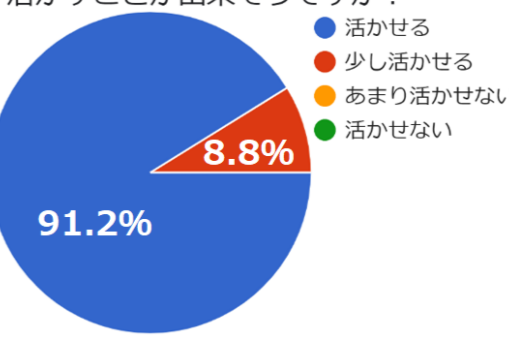
今回の研修は意思決定支援をテーマに2施設の終末期がん療養者の関わりについて事例報告して頂きました。看護の場面で治療、療養場所について意思決定を支える役割が求められています。その人らしく最期まで人生を全うできるよう支援するために、患者(利用者)や家族の思いに寄り添うことの大切さと連携について学ぶ機会になりました。

編集後記 府北支部書記 青野 裕子

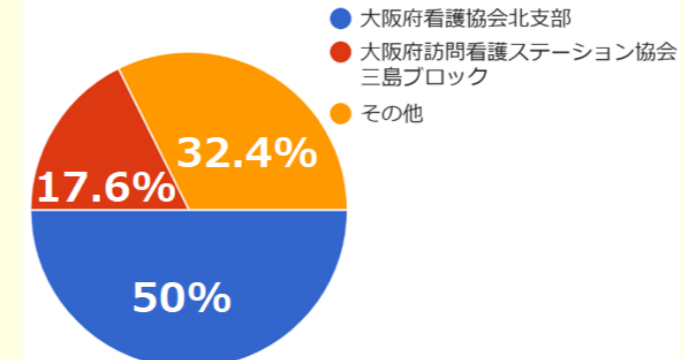
今回の研修は、コロナ感染第7波ピーク時と重なった影響もあり、参加者数は通常の研修の半数ぐらいいましたが、がん患者さまへの意思決定支援については、多くの学びがありました。危機状況における患者さまの心の変化そこに寄りそう家族と看護師の支援が短い発表の中しつかりと伝えられていました。講師の先生方有り難うございました。

次回研修会：人材育成研修 10月22日(土) 14時～16時予定

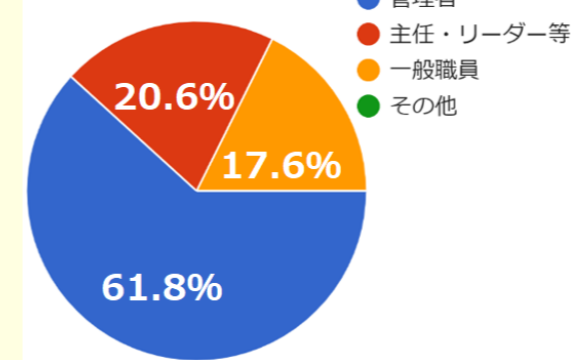
発表内容は今後の業務に活かすことが出来そうですか？



あなたの事業所について



職位について



34件のご回答 ご意見・ご感想について 多くの貴重なご意見ご感想をいただきありがとうございました。一部抜粋してご紹介致します。

- ・中々、患者様、家族様の思いに踏み込んで、その気持ちに沿った看取りを迎える事が少なくなっております。気持ちを十分に傾聴した看護をしていきたいと思えました。
・チーム医療とはこういうことだとわかる事例でした。とても感動しました。意思決定支援は難しいと思いますが私も看護師として患者家族の気持ちを正確にとらえ関わって行けるように頑張ろうと思えました。
・2年目で急性期病院で働いており、受け持ち患者での意思決定支援をしたことがなかったため今回の研修で意思決定支援の大切さや関わり方について学べてよかったです。
・貴重な発表ありがとうございました。コロナ禍であるため病院では退院指導や退院前カンファレンスが充実できないジレンマがあると思います。この退院前カンファレンスや看護サマリーなどをうまく活用してスムーズな退院支援ができたケースなどの事例があればお聞きしたいと思っています。
・紙面だけでなく本当の意味での連携を行なっていきたいと改めて思いました。貴重な事例の発表ありがとうございました。理事のお言葉も胸にささりました。
・がん看護、ターミナルについてとても感心があるので、とても勉強になりました。多くの患者さまを担当されるだろう環境の中で、一人一人に合った意思決定支援を常に思い悩みながらベストサポートする強い気持ちがいかに大切かを改めて学ばせていただきました。自分も何か動ければと思っております。ありがとうございました。
・壮年期という、自分にとっても身近な年代の方の、実際の訪問介護介入から、緩和ケア病棟入院など家族を含めたケアを、事例を通して知り、関わりやサポートについて学び、大変勉強になりました。すごく貴重な研修だったので、開催に感謝いたします。ありがとうございました。